

資料4-① 地方自治体の喫煙対策の良好事例(グッドプラクティス)
喫煙室を廃止して平成25(2013)年4月より建物内禁煙とした青森県庁の事例



喫煙室は廃止され、建物内禁煙化



・喫煙コーナーは通路近傍で屋根もあるため受動喫煙防止の観点からは、建物から離すことがより効果的である



・青森県警も同時に建物内禁煙化が行われ、喫煙場所は屋外のプレハブ小屋
・ただし、喫煙室の使用は、喫煙者自身の受動喫煙、および、残留タバコ成分(3次喫煙、サードハンドスマーキ)の原因となるため、閉鎖型にはせず、壁面の一部を外す、窓にガラスを入れない、など半開放型にすることを推奨したい

豪雪地帯でも建物内禁煙が実施可能であった、という好事例である。

資料4-② 地方自治体の喫煙対策の良好事例(グッドプラクティス)
喫煙室を廃止して平成25(2013)年4月より建物内禁煙とした青森市役所の事例



喫煙室は廃止して物置に転用し、建物内禁煙化



一般庁舎からは30メートル以上離れ、議会棟にも隣接させていない喫煙室



屋外喫煙コーナー

勤務時間中の喫煙は禁止されており、撮影時、外来者が喫煙していたのみ
豪雪地帯でありながら、議会棟でも建物内禁煙が実施可能であった、という好事例

資料4-②(続き) 地方自治体の喫煙対策の良好事例(グッドプラクティス)



2014年に撤去された横浜市役所、ロビーの喫煙室

資料4-③ 地方自治体にタバコ産業から提供された喫煙場所



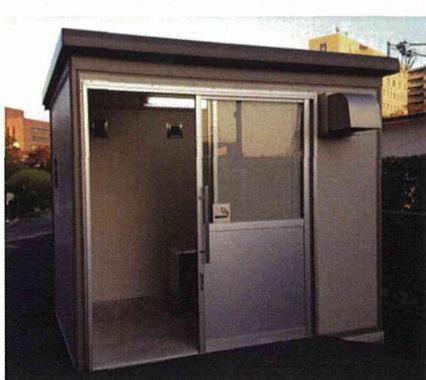
某市役所



某県庁(半開放型)



某県庁、半開放型の喫煙コーナー(タバコ産業の灰皿とポスター)

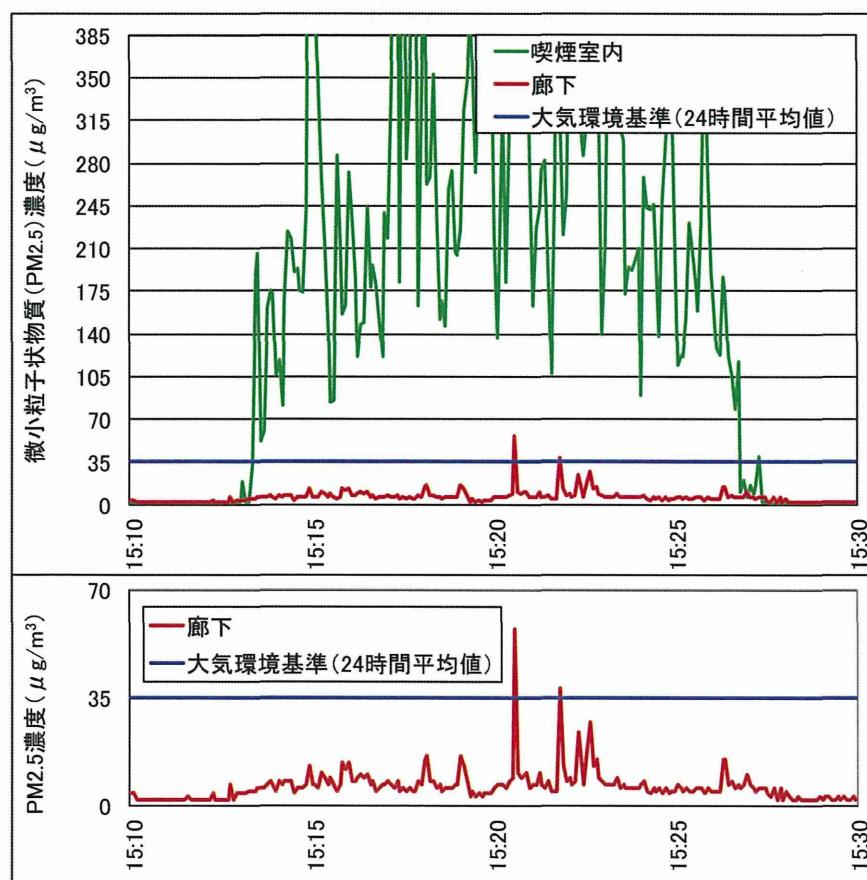


某市役所屋外の喫煙室にタバコ産業が提供した灰皿

資料5-① 某地方自治体一般庁舎の受動喫煙に関する調査結果

3階廊下 喫煙室

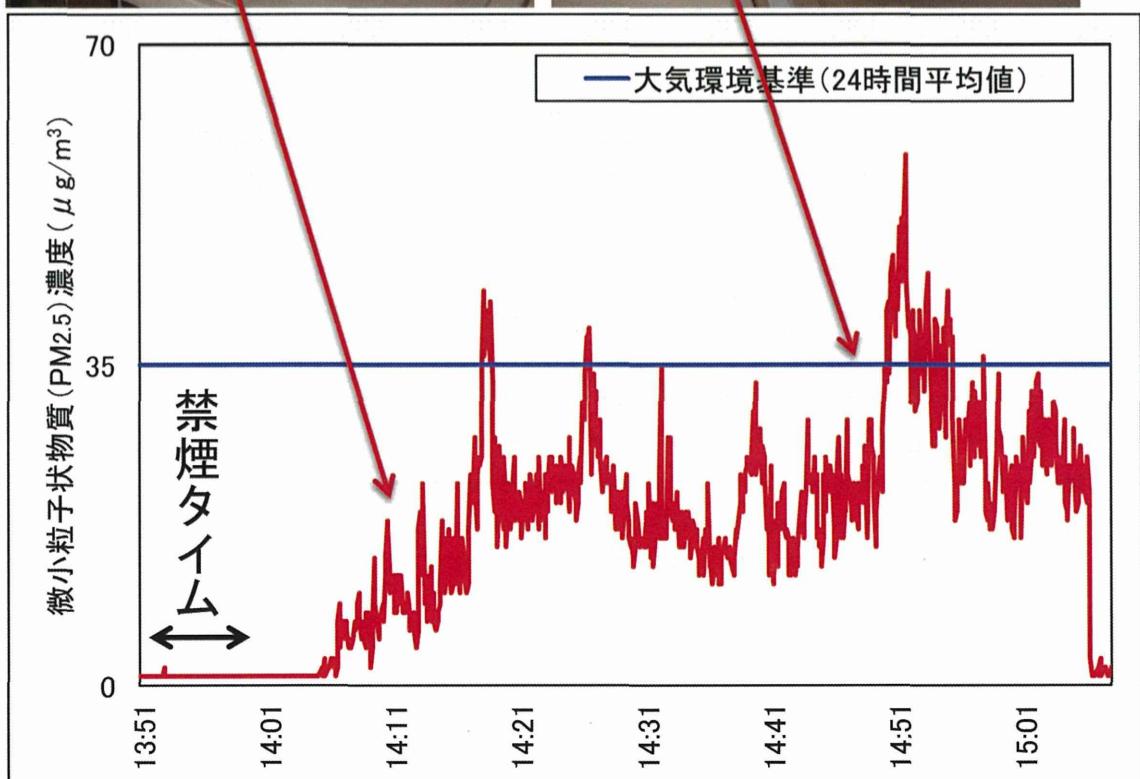
タバコから発生する煙は直径が1ミクロン以下、つまり、微小粒子状物質(PM2.5)であり、PM2.5を測定するデジタル粉じん計を用いて、受動喫煙の状況を評価した。



資料5-② 某地方自治体一般庁舎の受動喫煙に関する調査結果

喫茶店A

11:30～14:00以外は喫煙可能

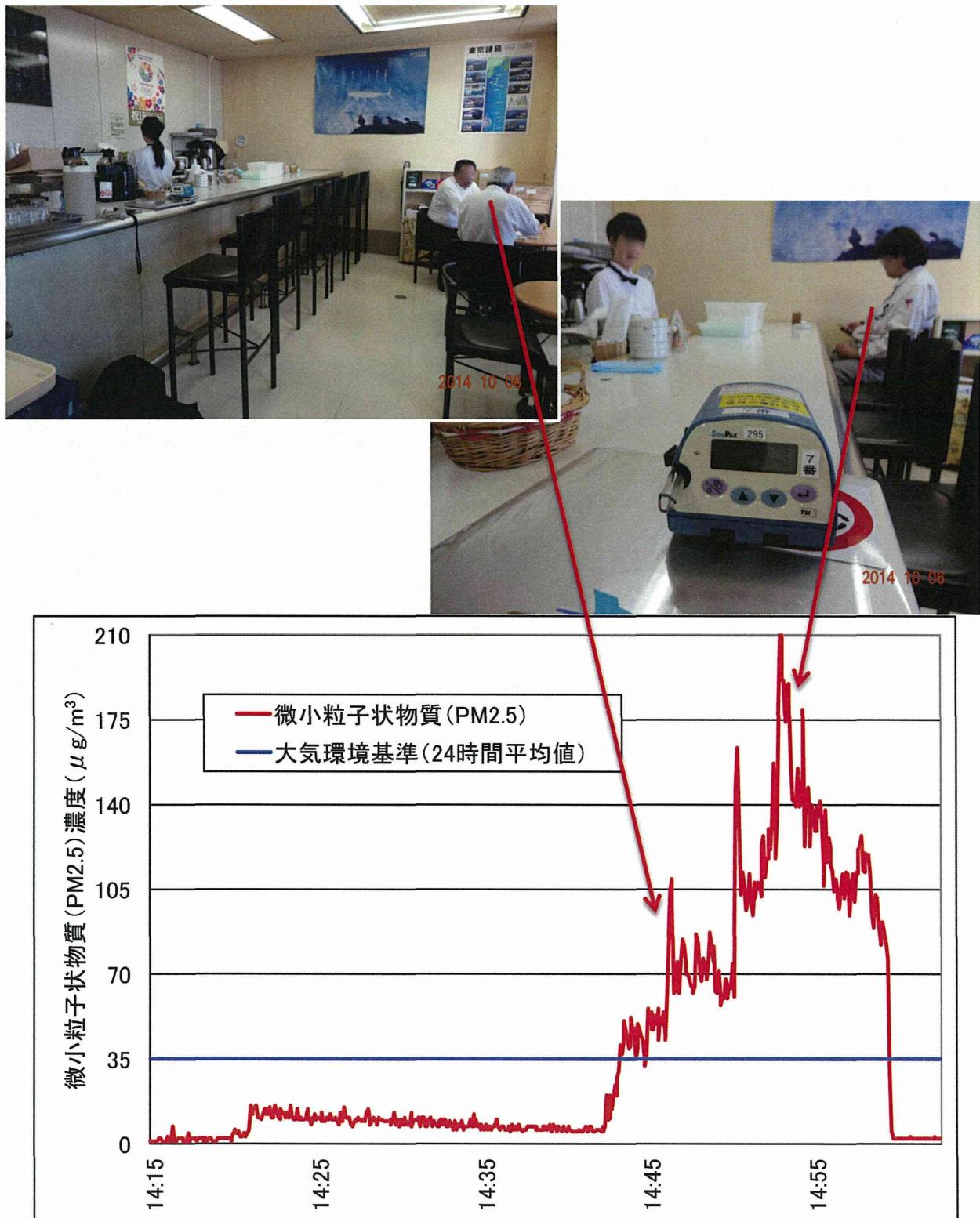


所見:

禁煙時間終了後、2名の喫煙に伴い受動喫煙が発生した。

資料5-③ 某地方自治体一般庁舎の受動喫煙に関する調査結果

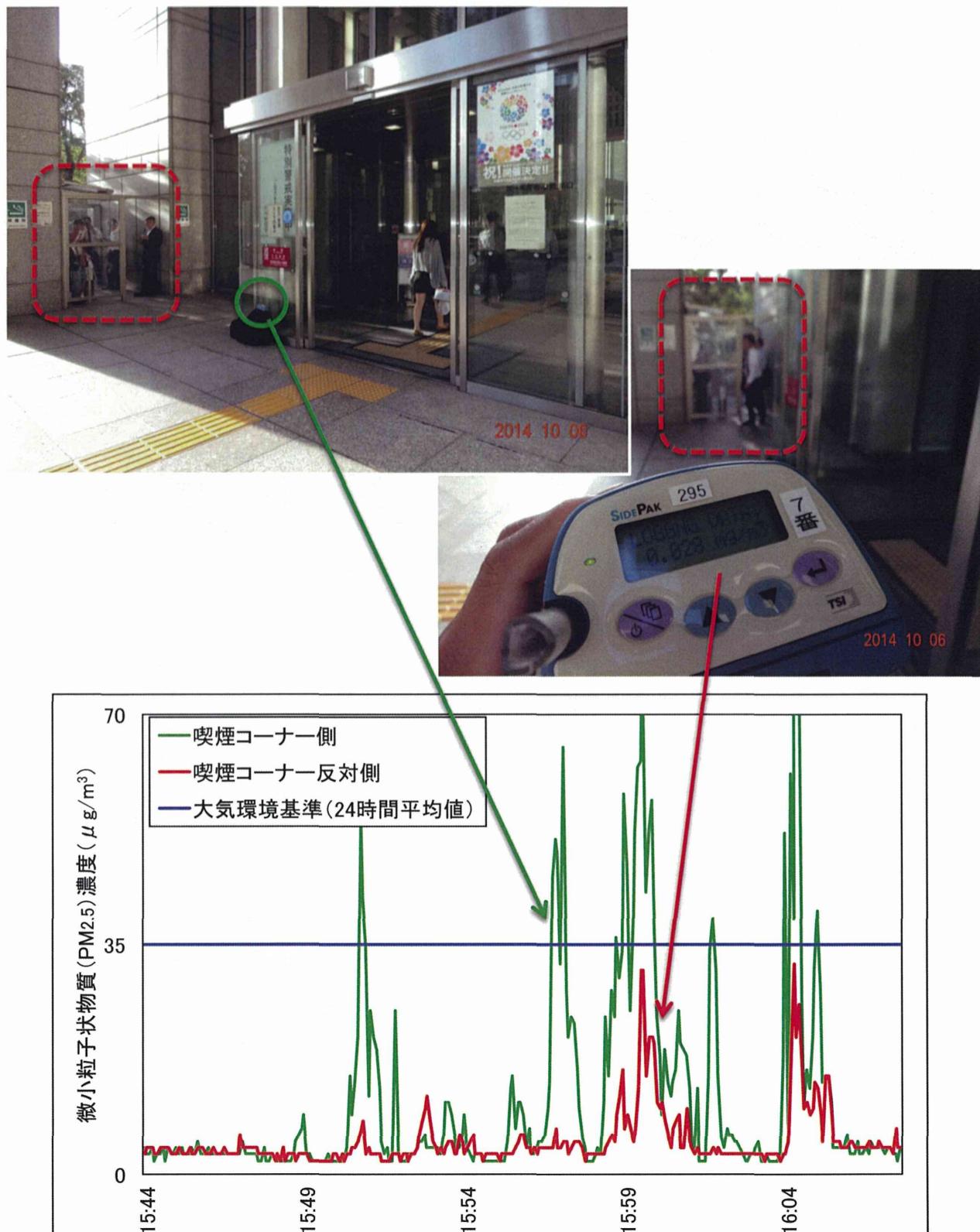
25階喫茶店：常時喫煙可能



所見：
2名の喫煙に伴い、高い濃度の受動喫煙が観察された。

資料5-④ 某地方自治体一般庁舎の受動喫煙に関する調査結果

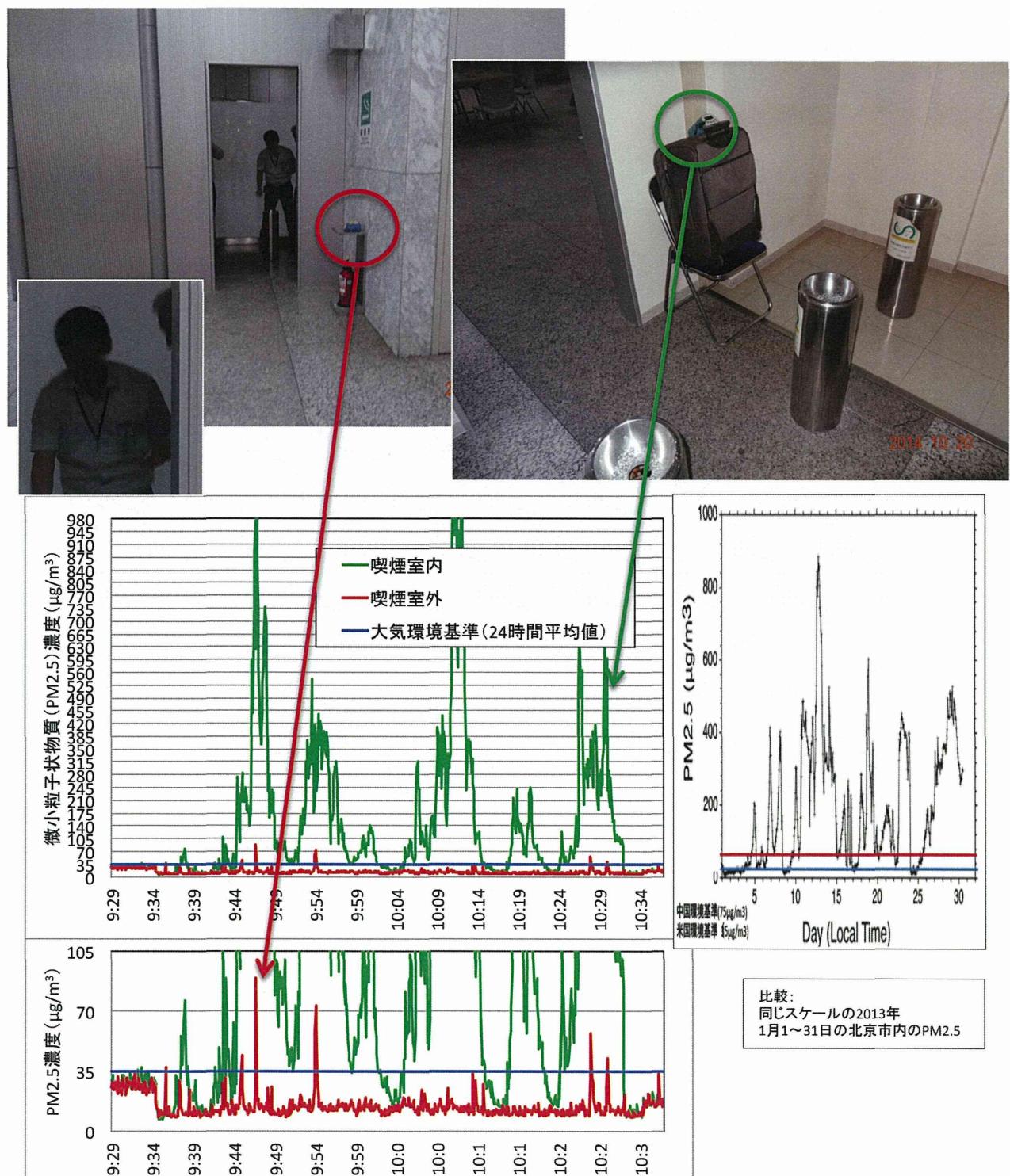
出入口近傍の喫煙コーナーからの受動喫煙



所見：台風後の風が、手前から喫煙コーナー側に吹いていたにもかかわらず、出入口の両側で受動喫煙が発生していた。

資料5-⑤ 某地方自治体一般庁舎の受動喫煙に関する調査結果

市民ホール喫煙室から漏れるタバコ煙



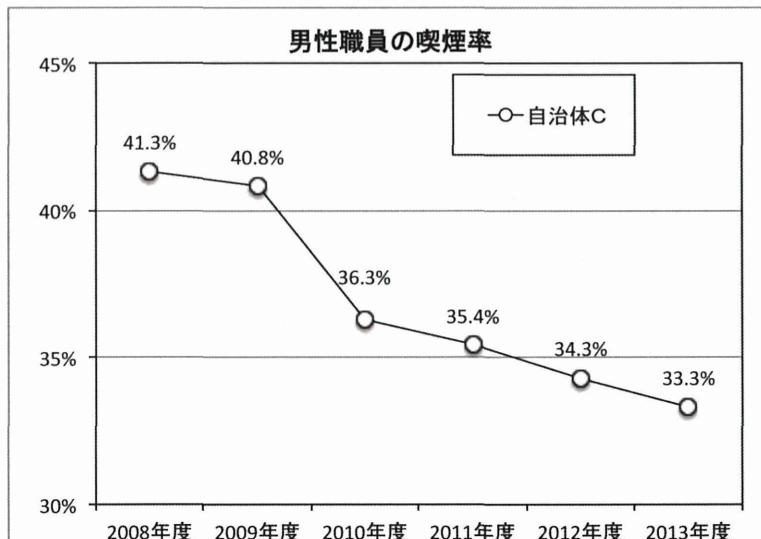
所見:

- ・喫煙室からタバコ煙が漏れ、ホール受付の受動喫煙の原因となっていた。
- ・喫煙室の内部はPM2.5の大気環境($35\mu\text{g}/\text{m}^3$)に比較して、劣悪な環境であった。
- ・勤務時間中にストラップを下げた職員が多数喫煙していた。

資料6-①：地方自治体の禁煙化と大幅値上げの効果に関する検討
敷地内禁煙、勤務時間中の喫煙を禁止した大阪市役所の事例（平成25年度報告書から再掲）



- ・大阪市役所の周囲は2007年より路上喫煙禁止、違反の過料は1000円
- ・2010年4月より建物内禁煙が実施されたことにより、実質的な敷地内禁煙に、最寄りの喫煙可能場所は堂島川を越えた場所にある喫煙コーナー
- ・2010年10月より17時30分までの勤務時間中に喫煙禁止になると同時に、タバコ代の大幅値上げ(300円→410円)も行われた

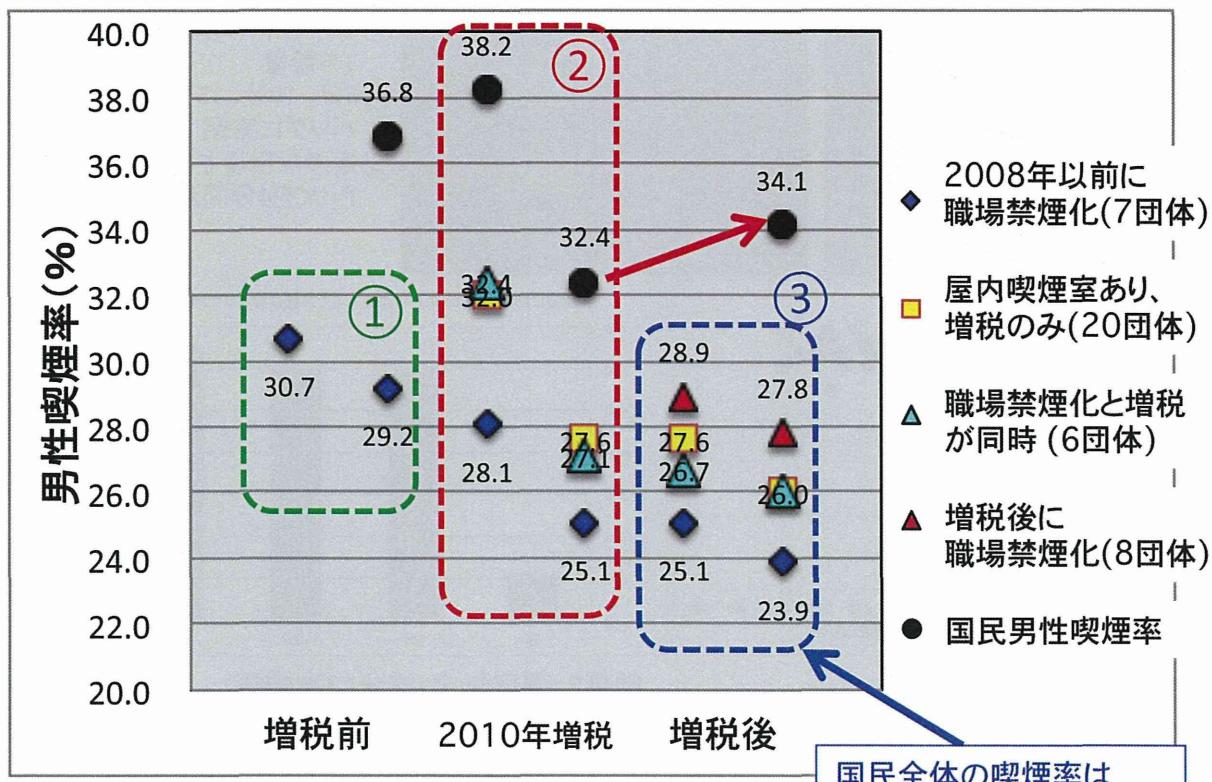


※職員定期健康診断問診票より集計（データ公開の許可）
※消防局、交通局、水道局、病院局及び学校園の職員を除く

資料6-②: 地方自治体の禁煙化と大幅値上げによる 男性職員の喫煙率低減効果に関する検討

①2008年度までに禁煙化 (7自治体)	前 30.7% → 後 29.2% マイナス1.5% (変化率4.9%)	増税 (7自治体)	2009 増税 2011 28.1% → 25.1% マイナス3.0% (変化率10.7%)*	→	2011 自然経過 2013 25.1% → 23.9% マイナス1.2% (変化率4.8%)*
②2010年10月に増税 (20自治体)		2009 増税 2011 32.0% → 27.6% マイナス4.4% (変化率13.8%)**	→	2011 自然経過 2013 27.6% → 26.0% マイナス1.6% (変化率5.8%)**	
③禁煙化と増税が同時 (6自治体)	前 2008 2009 禁煙化と増税 32.4% → 27.1% マイナス5.3% (変化率16.4%)*	後 2010 2011	→	2011 自然経過 2013 26.7% → 26.0% マイナス0.7% (変化率2.6%)*	
④2011年度以後に禁煙化 (8自治体)		前 2010 2011 禁煙化 28.9% → 27.8% マイナス1.1% (変化率3.8%)	→	後 2012 2013	
⑤日本男性喫煙率 (厚生労働省の報告より)	2008 36.8% → 2009 38.2% → 2011 32.4% → 2012 34.1% プラス1.4% (変化率3.8%) マイナス5.8% (変化率15.2%) プラス1.7% (変化率5.2%)				

*P<0.05、**P<0.01、***P<0.0001



結論①: 職場禁煙の前後で有意に喫煙率低下

結論②: 増税はどの集団にも有効

結論③: 職場の禁煙化が早い=喫煙率低下

国民全体の喫煙率はリバウンドする中で、
自治体職員は持続低下